

問い合わせ先

交通部企画課企画調査室

主任企画調査官 峰 博史

昼間 03-3591-6361(内線6202)

夜間 03-3591-9807

平成18年4月21日

海上保安庁

## 平成17年度通航船舶実態調査について

海上保安庁では、従来から船舶交通に関する安全対策のための基礎資料に活用することを目的として、わが国の主要狭水道や沿岸部の主要海域等を対象とした通航船舶実態調査を実施しています。

このたび、平成17年度の通航船舶実態調査の結果を取りまとめましたので別添のとおりにお知らせします。

なお、特徴は次のとおりです。

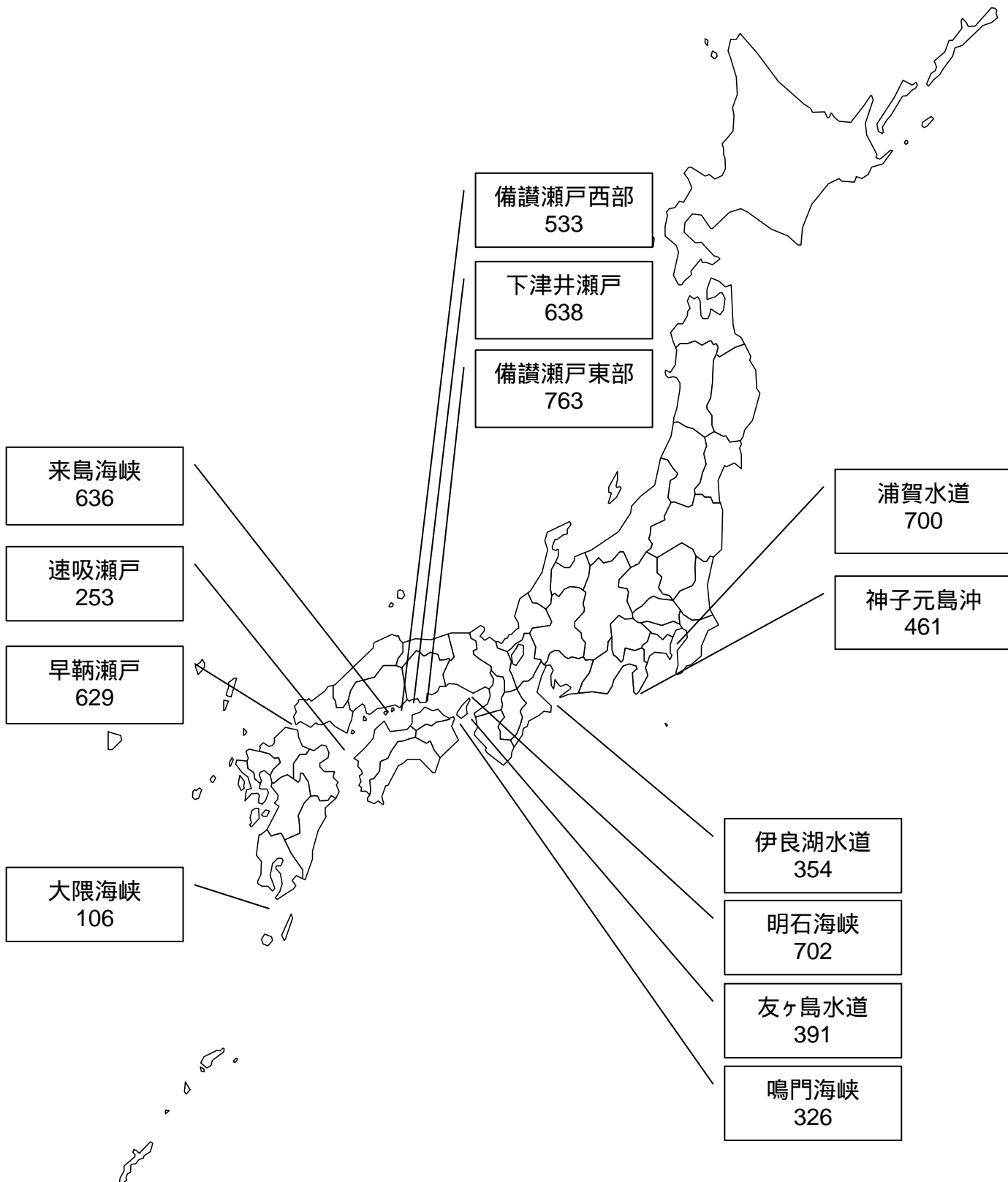
1. 主要狭水道別では、備讃瀬戸東部が763隻(88隻減少)と最も多く、次いで明石海峡 702隻(122隻減少)、浦賀水道 700隻(29隻増加)の順となっています。
2. 主要狭水道 6箇所通航船舶総隻数は、3,688隻(799隻減少)でした。
3. なお、伊良湖水道については、354隻(470隻減少)でしたが、これは、調査期間中における天候不良による漁船の通航隻数がほとんどなかったことによるものです。

1 主要狭水道とは、浦賀水道、伊良湖水道、明石海峡、備讃瀬戸東部、備讃瀬戸西部及び来島海峡です。

2 ( ) は、昨年の通航船舶隻数との比較を示しています。

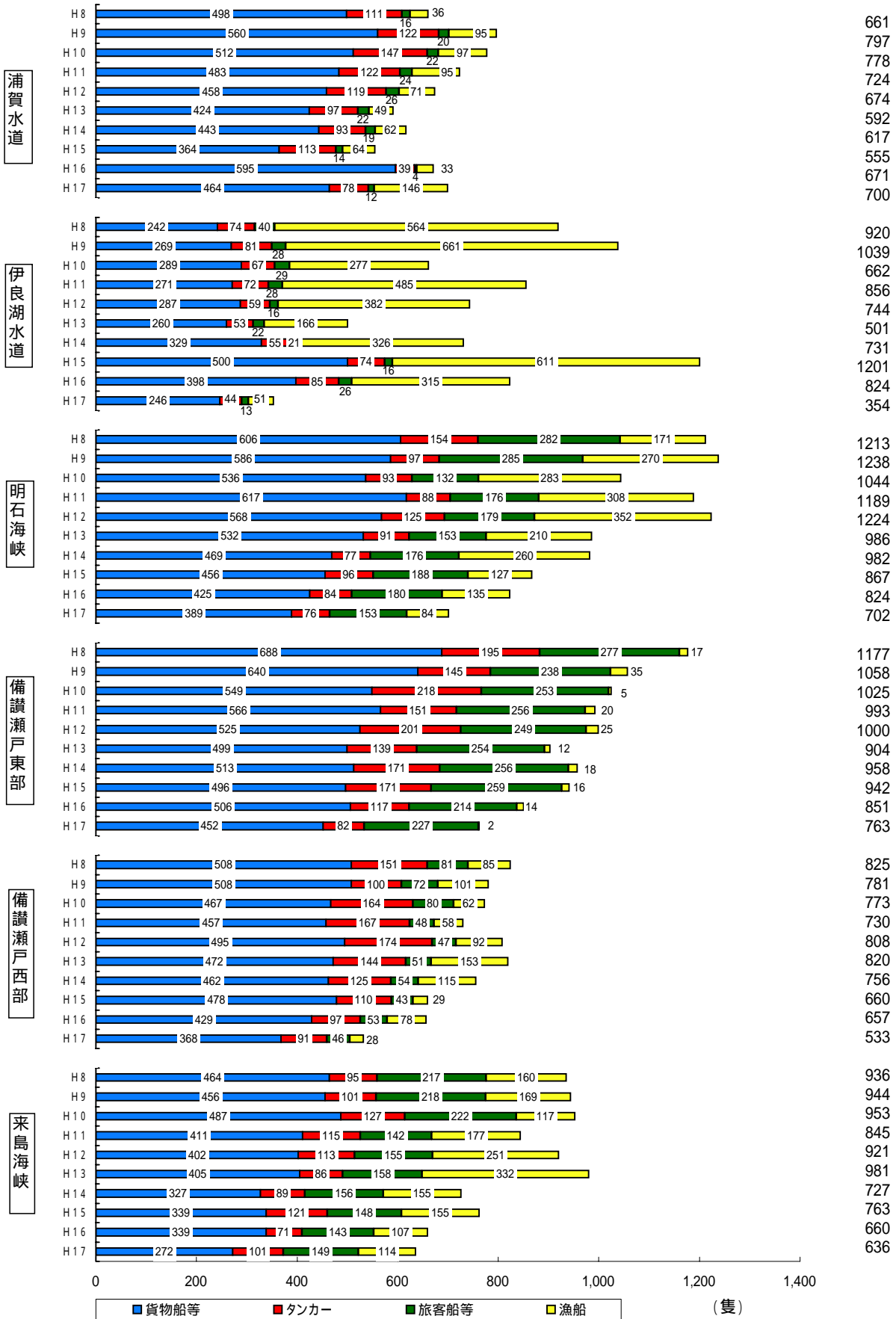
3 通航船舶隻数は、24～72時間、目視観測した通航船舶隻数の1日の平均隻数です。

# 平成17年度 通航船舶実態調査箇所一覽



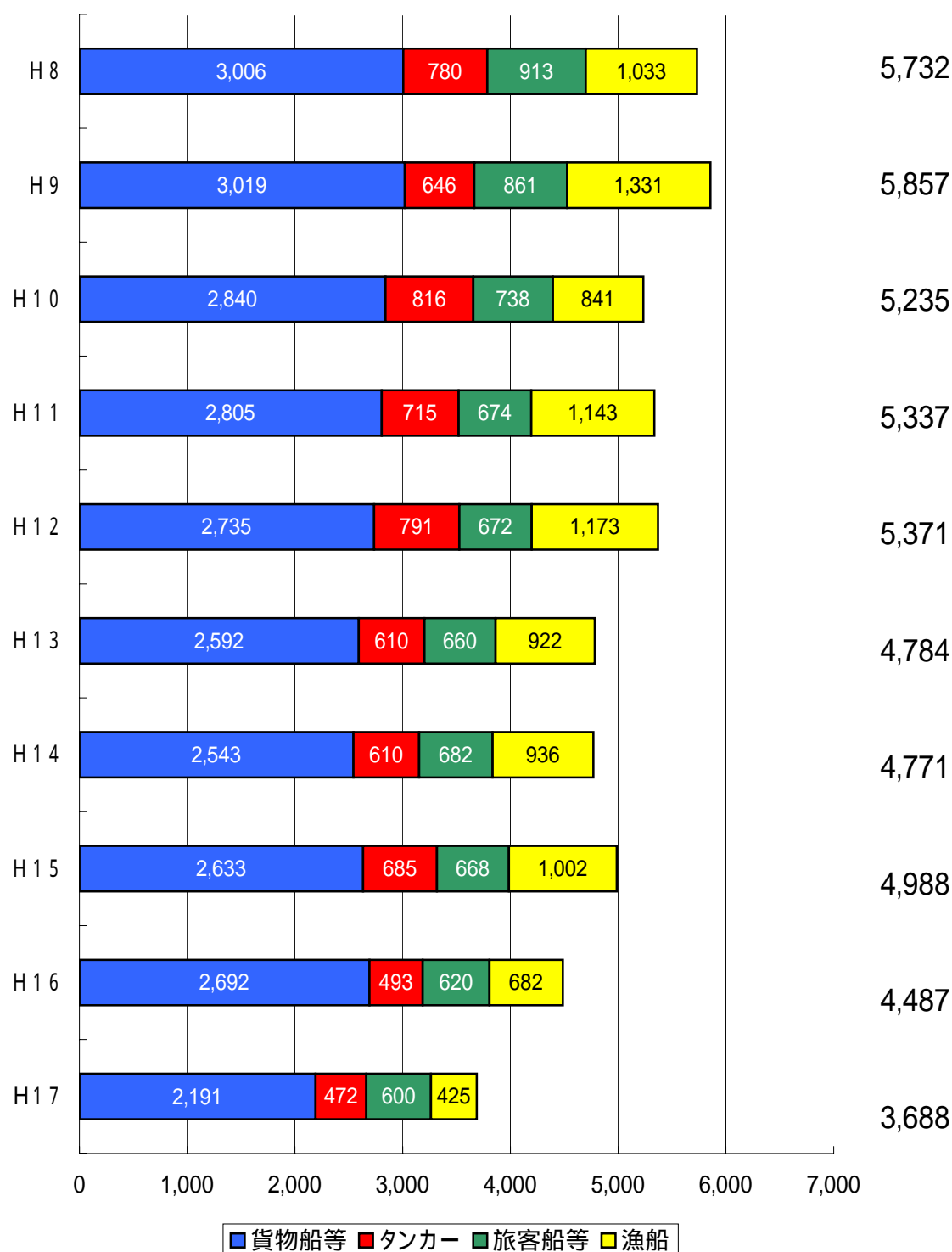
\* 上段は海域名、下段の数字は1日平均の通航隻数を示す。

# 主要狭水道別通航船舶隻数の推移(1日平均)



「貨物船等」とは、貨物船、えい航船、押航船及びその他(巡視船、自衛艦、独航えい・押航船等)をいい、「旅客船等」とは旅客船、カーフェリー、水中翼船及びエアクション船をいう。

## 主要狭水道(6箇所)における通航船舶総隻数の推移(1日平均)



主要狭水道とは、浦賀水道、伊良湖水道、明石海峡、備讃瀬戸東部、備讃瀬戸西部及び来島海峡をいう。

右肩の数字は、目視により観測した6箇所の1日平均の通航船舶隻数の総計を示している。

「貨物船等」とは、貨物船、えい航船、押航船及びその他（巡視船、自衛艦、独航えい・押航船等）をいい、「旅客船等」とは旅客船、カーフェリー、水中翼船及びエアクッション船をいう。

平成17年度 観測箇所と観測期間

|    | 観測箇所名  | 観測期間                        |
|----|--------|-----------------------------|
| 1  | 浦賀水道   | 11月1日1200～11月4日 1200(3日間)   |
| 2  | 神子元島沖  | 9月20日0600～9月21日0600(1日間)    |
| 3  | 伊良湖水道  | 12月5日1500～12月8日1500(3日間)    |
| 4  | 明石海峡   | 11月28日1200～12月1日1200(3日間)   |
| 5  | 友ヶ島水道  | 11月28日1200～12月1日1200(3日間)   |
| 6  | 鳴門海峡   | 11月28日1200～11月30日1200(2日間)  |
| 7  | 備讃瀬戸東部 | 12月5日1200～12月8日1200(3日間)    |
| 8  | 備讃瀬戸西部 | 12月5日1200～12月8日1200(3日間)    |
| 9  | 下津井瀬戸  | 11月21日1200～11月22日1200(1日間)  |
| 10 | 来島海峡   | 12月5日1400～12月8日1400(3日間)    |
| 11 | 速吸瀬戸   | 7月20日2230～7月23日2230(3日間)    |
| 12 | 早鞆瀬戸   | 10月25日1200～10月28日 1200(3日間) |
| 13 | 大隈海峡   | 10月6日1000～10月7日1000(1日間)    |